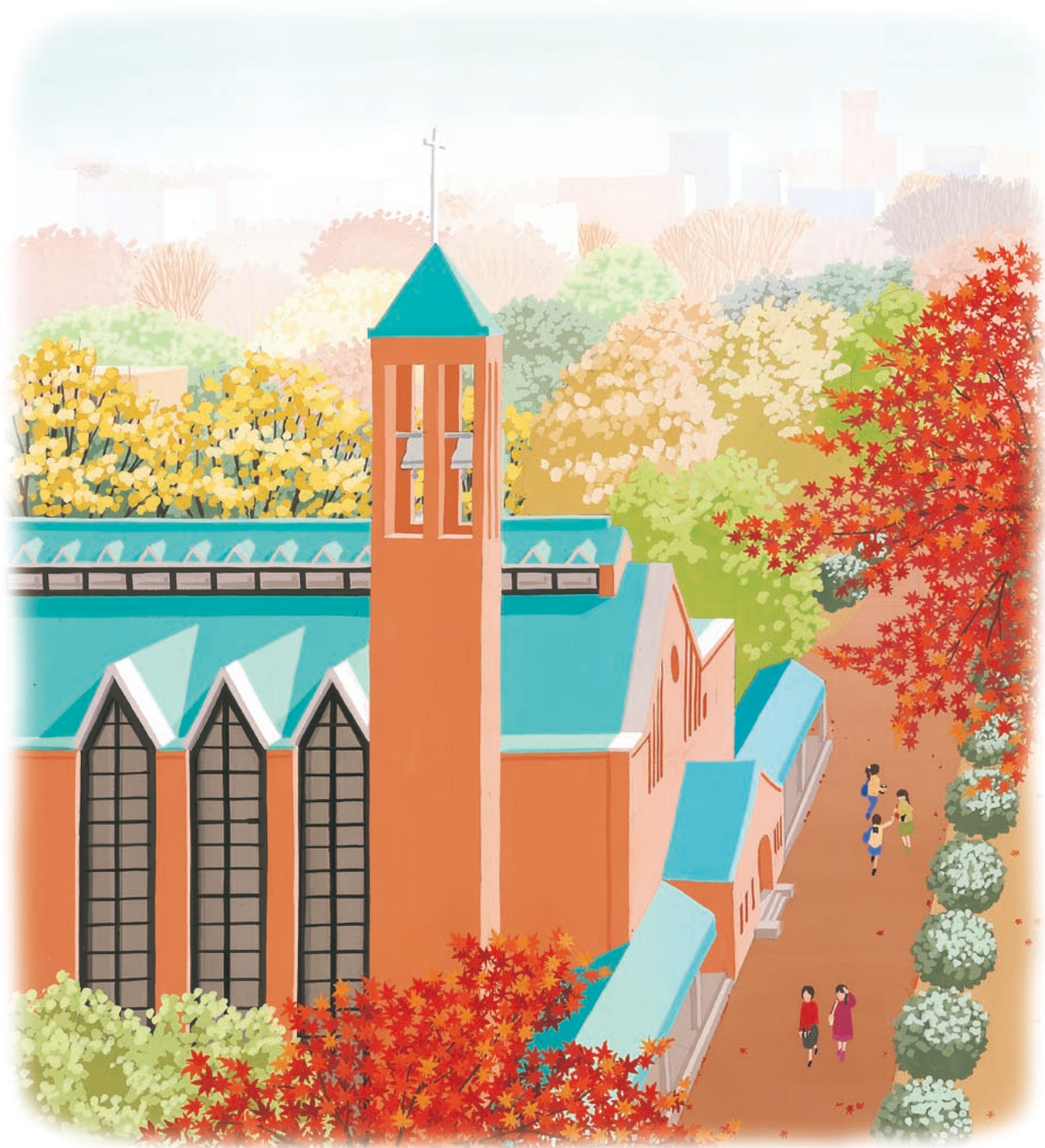


SOWER

ソア=種まく人

No.38
September 2011
財団法人
日本聖書協会

東日本大震災 被災地聖書支援 特集 被災地にみことばをお届けして



SOWER
ソア
No. 38

2011年9月1日発行
「年2回発行」

発行・財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451
振替 00160218410

選べる
カラーの

サムインデックスつき ジッパー聖書

「使いやすい」「持ち歩きに便利」「プレゼントにも最適」…と、好評をいただきました。
表紙とカバーが一体化したジッパーつき聖書シリーズ。
ジッパーを開けるとそのまま聖書がお読みいただけます。
今回は中型判、ミニ判になって登場です。

9月中旬
発売予定

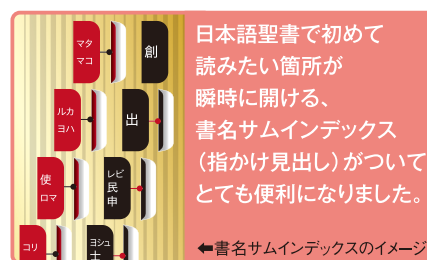


中型聖書

新共同訳(旧新約聖書66巻) NI55ZTI 定価6,090円(税込)
新共同訳 旧約聖書続編つき NI55DCZTI 定価6,720円(税込)
B6判(約16cm×19cm) 三方金

ミニ判聖書

新共同訳(旧新約聖書66巻) NI35ZTI 定価3,990円(税込)
新共同訳 旧約聖書続編つき NI35DCZTI 定価4,410円(税込)
B7判(約12cm×14cm) 三方銀



日本語聖書で初めて
読みたい箇所が
瞬時に開ける、
書名サムインデックス
(指かけ見出し)がついて
とても便利になりました。

◀書名サムインデックスのイメージ

それぞれに旧約聖書続編つきがございます。カラーは3色ずつをご用意。

中 型 聖 書



橙 エンジ 紫

ミ ニ 判 聖 書



ピンク 青 緑

■お求め、資料請求はお近くのキリスト教専門書店まで

財団法人
日本聖書協会
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 <http://www.bible.or.jp>

ホームページからご注文いただけます(送料別途)





涙の革袋

「あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」（詩五六・九）。ダビデがサウル王に命をねらわれ、追い詰められた時、こともあろうに敵対しているペリシテ人の町ガトに逃げ込み、捕らえられ、狂気を装います（サム上二・一一）。小さなガラス製の涙壺は博物館で見たことがあります。山羊一頭で作った革袋を涙壺にするほどの涙を流したダビデの悲しみは、どんなに深かったことでしょう。

このたびの東日本大震災で被災された方々は、涙の革袋がいくつあっても足りないほどの涙を流されました。地震、津波、原発事故のニュースを見つづ、言い知れない虚脱感に襲われ、心の支えを求めて聖書を読み耽る日々が続きました。終末の徴なのか。「目を覚ましていなさい」（マルコ一三・三三）のお言葉に祈りが湧きます。一方、「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦」（詩四六・二）を読み、力が与えられました。地震や津波が襲う記述が生々しく、聖書の言葉がにわかに現実味を帯びて迫ってきます。

ペリシテ五都市のひとつであるガトは、ダビデが少年時代に戦ったゴリアトの出身地です。テル・ザフィットと呼ばれる丘がガトだと言われています。夕日に羊飼いの少年が浮かびます。

巻

頭

聖

句

イエスは大声を出して
息を引き取られた。

すると、神殿の垂れ幕が

上から下まで真っ二つに裂けた。

（マルコによる福音書15章37、38節）

石橋秀雄

いしばし ひでお
日本基督教団総会議長

東日本大震災の、津波による凄まじい破壊の跡のただ中に立つて以来、主イエスの死を見続けている。著名な写真家は、この地獄図の写真を掲載する中で、「神様消滅」「いま神の存在を疑つ」と記した。神は死んだ。三位一体の子なる神の死。その時、「神殿の垂れ幕が……真っ二つに裂けた」。絶望の中に神のわざを見る。いま、主イエスの死を直視するところから希望の道が開かれる。

CONTENTS

SOWER No.38 2011

- 2 ソア38号発行によせて
BS NEWS 渡部 信
- 3 特集
東日本大震災 被災地聖書支援
被災地にみことばをお届けして
編集部
- 8 聖書セミナー⑩ 飯 謙
詩編を読む ―― 最近の研究を参考に
- 10 人物と聖書②③ 鈴木範久
賀川豊彦と聖書
- 12 エッセー④⑤ 加藤一二三
祈りと努力
- 14 Bible Guide
みことばフォトブック「想い」
ニューバイブルトーク
- 15 JBS情報
新翻訳ニュース
第50回聖書和訳協力者頌徳記念式典
- 16 東日本大震災被災地への
聖書支援にご協力をお願いいたします
聖書協会を継続してお支えいただける
後援会にご入会ください!
- 17 聖書図書館蔵書シリーズ④⑤
舊約聖史略 新約聖史略
正教会 1876年

表紙の言葉

今回は東京の白百合女子大学の教会です。秋の発行ということで、もみじを配した秋らしい配色になるように腐心しました。これまで描いてきた教会の多くが白亜の建物でしたが、この教会のあたたかい色壁にはまた別のほっとするものを感じます。「秋らしさ」にも一役買ってくれました。（絵・文＝佐藤百合子）



被災地に
みことばを
お届けして

第2回訪問 陸に乗り上げた大型船

編集部

東日本大震災は、東北地方に地震・津波・原発事故という三重の大災害となりました。日本聖書協会では、被災地の方々にみことばの灯を届けるために、聖書贈呈支援活動を震災直後より積極的に行っています。今号では、その活動についてご報告します。

三月一日に発生した東日本大震災は、死者・行方不明者二万人以上、建物の全壊二〇万戸以上という、日本で戦後起きた自然災害としては未曾有の被害をもたらしました。また、巨大地震に続いて襲った大津波は、太平洋沿岸の町々に壊滅的被害を与え、被災した方々は今も先の見えない避難生活を送っています。さらに、原発事故による放射能汚染の拡散は、広範囲に深刻な影響を及ぼしています。

日本聖書協会では、東北地方をはじめとした被災地に住むすべての人々と教会の復興支援のため、震災直後より緊急支援活動を開始しました。災害支援協力献金の呼びかけには、日本全国はもとより、海外の聖書協会や日本人教会からも貴いご献金が多く寄せられました。そして、主にある希望をお届けすることを願い、聖書とともに、生活に必要な物資を一人でも多くの人に届けるために被災地の現場に向かいました。

以下、後援会員の皆様に発行しているニュースレター『からし種』の記事を通して、被災地訪問のレポートをご紹介します。

ソア38号発行によせて

3月11日に東日本大震災が発生し、半年が経とうとしています。日本聖書協会ではすぐに支援募金を開始し、また3、4、6、7月とスタッフを被災地域に派遣して、聖書無料頒布、生活物質支援などを行いました。9月には支援内容を変えて、福島市音楽堂にて歌手の沢知恵さんをお招きして支援コンサートを計画しております。

突然の災害に見舞われた方にとっては、長きにわたる祈りと支援が必要なことでありましょう。心から主の平安と慰めをお祈りいたします。また、聖書協会の支援募金にご献金くださった方々には、心からお礼申し上げます。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマ12：15）。聖書のみ言葉は、私たちの生活を潤し、また人生の歩みを正しく導く神様からのメッセージであります。多くの方々に聖書のみ言葉を新鮮に受け取っていただくことが、私たちの希望であり願いです。

現在、写真と聖句を並べた『みことばフォトブック』第2弾、旧・新約聖書を音声として収録した「ニューバイブルトーク」、そして各書を開きやすいよう頁の端に索引のツメを刻んだスタイリッシュなカバーのミニ（B7判）と中型（B6判）の『ジッパー聖書』など、新しい聖書出版を予定しています。これらの聖書が「私の聖書」として皆さまに用いられますようお祈りいたします。



財団法人 日本聖書協会

総主事 渡部 信
わたべ まこと

BS NEWS

「韓国語聖書と
日本聖書協会」

この4月4日、韓国聖書協会（KBS）の招きで「韓国語聖書出版100周年記念式典」に出席しました。韓国聖書協会は、国内で約200万冊、海外向けには約400万冊の聖書を製作している、世界でも最も活躍している聖書協会のひとつです。独自の製本工場を持っています。

韓国聖書協会の歴史を辿ると、日本より23年遅れて、1911年に初めて、韓国語に翻訳された旧新約聖書が出版されました。1885年、アメリカの宣教師アンダーウッドが日本在住の李樹廷から、韓国語に翻訳されたマタイ福音書を手に入れたのちに韓国に渡り、日本の翻訳委員会を参考にして韓国語聖書翻訳委員会を組織し、完成させたそうです。

また、横浜にアメリカ聖書協会（ABS）の事務所があった時代、福音印刷合資会社が、韓国をはじめ東南アジアの聖書の印刷・製本を一手に引き受けていました。1911年ごろ、この福音印刷合資会社は銀座に進出して教文館の隣に移転し、後の1933

在の日本聖書協会のビルとなっています。韓国語聖書の特徴は、誰でも読めるハングル文字で翻訳をしたことと、大衆が共通に理解できた神概念「ハナニム（唯一神）」をキリスト教の「神」として早い時期に翻訳し直され、それが支持されたことだと言われています。



左からキムKBS前総主事、渡部総主事、バーンABS理事夫妻、クワンKBS総主事

KBSから感謝状を受け取る
渡部総主事

● 第一回訪問 (三月二七日～三〇日)

訪問地…宮城県仙台市、塩竈市、亘理町、山元町、白石市

支援聖書…聖書二二〇冊、新約聖書一五〇冊、絵本聖書一五〇冊、マンガ聖書三〇冊ほか
支援物資…果物、医薬・衛生用品、カイロ、ティッシュ、食品用ラップ、軍手ほか

地震発生から二週間あまりが経ち、東北自動車道の全線開通を受けて、最初の被災地入りを試みました。支援聖書と支援物資を、チャーターしたトラックと日本聖書協会のバンに積み込んで仙台を目指しました。

二八日、仙台では、日本基督教団東北教区事務所、仙台キリスト教書店ほか、四つの教会、支援団体を訪ね、聖書と支援物資をお届けしました。市内はどこも、ガソリンを求める車の行列ができ、燃料不足の深刻さを感じました。

翌二九日は、津波の被害地域を目指して東へ。仙台を抜けて多賀城市に入ったとたん、景色は一変しました。道路の両脇に散乱する瓦礫、流された鉄塔や家、ありえないところに挟まれて潰れた車など、この地を津波が襲ったことを強烈に思い知らされました。

さらに北上し、塩竈では三つの教会を訪ねました。一部、津波の汚泥をかぶった教会もありましたが、いずれの教会も会堂は守られ、地域の方々への支援物資の保管場所や、瓦礫整理に

来たボランティアの宿泊所として使われ、地域の皆さんと助け合って生きようとする懸命な姿に感銘を受けました。

津波被害を目の当たりにしながら南に進み、亘理町へ。ここでお訪ねした日本キリスト改革派教会亘理伝道所には、災害見舞いに来られた改革派の牧師の方々が集まっておられ、交わりを共にさせていただきました。この伝道所は、南にある山元町で二年ほど集会を持っていたが、その建物が丸ごと津波を受け、昨年そこで最初の受洗者となった二人の教会員も被災したということです。改革派の先生方とこの集会所を訪ねましたが、町全体をのみ込んだ津波被害の甚大さに言葉をなくすばかりでした。

● 第二回訪問 (四月一四日～一七日)

訪問地…宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市、釜石市

支援聖書…聖書五〇〇冊、新約聖書三〇〇冊、絵本聖書一〇〇冊、マンガ聖書一〇冊ほか
支援物資…食料、衛生用品、食品用ラップ、洗剤、文具、玩具、幼児用毛布ほか

地震発生から一カ月が経ち、現地との連絡も取りやすくなってきたようです。あらかじめ訪問予定地の教会に必要な聞いてから、聖書や物資を準備することができました。

一四日に東京を出発。気仙沼市から四〇キロ

メートルほど内陸にある岩手県一関市に宿をとって、一五日に気仙沼に入りました。

お訪ねした日本バプテスト同盟気仙沼教会は、津波の被害を免れた教会堂に支援物資が運び込まれ、被災された方々が必要な物資を受け取りに来ておられました。「津波で全部なくなっただんです」とおっしゃる方々がたくさんおられ、聖書のほか、お持ちした支援物資は、会堂に並べるそばからなくなっていました。

その後、海岸線を北上。陸前高田市の惨状はニュースでも報じられていますが、「町が壊滅した」という言葉を痛感させられる光景でした。市内唯一の単立教会を訪ねたあと、大船渡へ。カトリック大船渡教会、そして日本基督教団大船渡教会を訪ねました。どちらの教会も町の高台にあったために津波の直接の被害を免れました。

この日は釜石まで移動。ボランティアの宿泊所となっているカトリック釜石教会に泊めていただき、全国から集まったボランティアの方々とも交わりの時を持つことができました。

一六日は、日本聖公会釜石神愛教会、日本基督教団新生釜石教会を訪ねました。新生釜石教会は一階に津波の被害を受け、ボランティアの方々の助けも借りて瓦礫が取り除かれていましたが、その爪あとが生々しく残っていました。自らも被災した教会として、地域と共に復興し



第2回訪問 日本聖公会釜石神愛教会に聖書寄贈（左）
第2回訪問 日本基督教団新生釜石教会に聖書寄贈（下）



第1回訪問
被災地に向けて出発



第1回訪問 物資を現地の集積場に下ろす



第1回訪問 緊急支援物資の積み出し



第3回訪問
日本基督教団石巻
栄光教会にて絵本
聖書を寄贈

● 第三回訪問 (四月二六日～二八日)

訪問地…宮城県仙台市、石巻市
支援聖書…聖書二〇冊、絵本聖書一〇八冊、マンガ聖書二〇冊

今回は、渡部信総主事をはじめ三名の職員が宮城県石巻市を訪れました。すでに幹線道路や新幹線の復旧も進んでいたため、仙台まで東北新幹線で行き、車を借りて聖書を積み込み、石巻市の被災地に入りました。

港町である石巻市も、ほかの被災地同様、市内の各所に瓦礫が積み上げられていました。海に近い地域での被害の多くは、地震そのもののよりも津波によるものが大きかったと言われている。

第1回～第5回の訪問経路

久慈市

岩手県

盛岡市

宮古市

釜石市

大船渡市

陸前高田市

気仙沼市

宮城県

石巻市

一関市

第2回訪問

第3回訪問

仙台市

塩竈市

亘理町

山元町

白石市

福島県

福島市

郡山市

いわき市

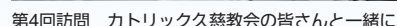
第5回訪問 (予定)

第1回訪問

で信頼関係が生まれ、聖書を受け取ってくださる方も多いそうです。今後に向けて、聖書の必要性を強く感じました。

一〇日はカトリック久慈教会を訪ねて、聖書を贈呈しつつ教会の皆さんと交わりの時を持つたあと、八戸市を経て東京に戻りました。

第4回訪問 宮古
コミュニティー・
チャーチに聖書
寄贈



日本聖書十協会さまへ 果

みんなのせいは、糸会本に、せいはマンガを
各とりきょう会にくださってありがとうございます
ございます。ぼくは、じんかあてから、せ
いはマンガをたくさんよんでいました。ぼくは
プロフェッショナルで、エリヤが、大すきです。きな
ばめんは、びょうきで、いなかでも、いそがえるところで
す。たりないのは、アポストロスがたりません。早く来て
ほしいです。ともきより。
(A3)

贈呈された「絵本聖書」を手
にする日本基督教団名取教会
教会学校の子どもたち

訪問地…岩手県一関市、盛岡市、宮古市、久慈市
支援聖書…聖書四〇冊、絵本聖書二六冊、マンガ
聖書二八冊

これまでの三回の訪問では、おもに宮城県や岩手県南部沿岸地域の被災地を訪問しましたが、今回は岩手県内陸部および北部沿岸地域の教会を四名の職員で巡回しました。

八日に東北新幹線で東京を出発して、最初に日本基督教団一関教会を訪れました。こちらで

ますが、そのことを実感させられました。

二七日に訪れた日本基督教団石巻栄光教会は、礼拝堂は無事だったものの、附属幼稚園の園舎が津波による床上浸水とともに建物に大きな被害を受けました。ボランティアの方々がこの教会を拠点として活動をしておられました。

そのほか、歴史のある会堂を持つ日本基督教団石巻山城町教会やカトリック石巻教会も訪ね、聖書とともに、子どもたちにも読んでもらえるよう絵本聖書やマンガ聖書もお渡ししました。

また、今回の訪問では、避難所となっている石巻市立鹿妻かづま小学校を訪ねて、被災地で活動しているキリスト教援助団体クラッシュジュパンと協力し、一般の被災者の方々のために聖書をお渡ししました。

は、礼拝堂内部の漆喰の壁が崩落するといった被害があつたものの、隣接する附属保育園は無事ということでした。子どもたちのために絵本とマンガの聖書を贈呈しました。

しかし同じ一関市でも、二十数キロメートル東にある日本基督教団千厩せんまゐ教会は、会堂、牧師館ともに大きな被害を受け、使用は困難な状況に置かれています。このように、津波被害のあつた沿岸地域ばかりでなく、内陸地域の地震被災の状況にも目を注いでいかなければならないと改めて思われました。

翌九日は、盛岡市から車で約二時間かかって海沿いの宮古市内へ。市街地は、津波による被害の爪あとがあちらこちらに残り、信号機は今も消えたままの状態でした。特に漁港のある海岸地域の被害が大きく、瓦礫や建物の撤去作業が進められていました。

日本基督教団宮古教会は、礼拝堂と牧師館に高さ一メートル以上の津波を受けたということでした。床下にある汚泥は掻き出せても、壁の間に入り込んだ汚泥によって腐食が進み、粉塵が上がり、臭いもするので、今後建て替える必要があるそうです。

その後、カトリック宮古教会を訪問しましたが、宮古市内の教会はどこもボランティアの活動拠点となっていました。毎日、そこから市内や近隣町村の家族にボランティアが送り出さ

ら四カ月以上経ち、被災地では瓦礫の撤去など、地道な活動が続けられていますが、復興にはさらに長い時間がかかります。被災された方々の疲労も日増しに募り、被災地の教会の牧師の精神的、肉体的疲労はいかばかりかと胸が痛みます。

その一方で、聖書をもっと送ってほしいという声も各地でお聞きました。特に子どもたちが安心して読める絵本聖書やマンガ聖書の要望は非常に強く、引き続きそのような現地の声をお聞きしながら、必要に応じた聖書頒布の支援を広げていければと願っています。これからも皆様からのお祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

七月二七、二九日には、五回目の被災地訪問として、福島市、郡山市、いわき市を巡回します。また九月には、福島市内で歌手の沢知恵さんをお招きして、被災された方々のために慰問のコンサートを開く予定です。

七月末現在で、全国の教会、信徒の皆様からはもとより、海外から献げられたものも含めて九〇〇万円以上の募金が寄せられており、約五五〇〇冊の聖書を贈呈することができましたことを心より感謝申し上げます。引き続き、ご支援をお願いいたします。詳しくは一六ページをご覧ください。

詩編を読む

最近の研究を参考に

飯 謙

いい けん

神戸女学院大学学長



新たな疑問

旧約聖書の詩編は、福音書やパウロ書簡における引用量を鑑みて、キリスト教会でもっとも親しまれてきた旧約文書と評することができよう。現在の旧約に一五〇作品収められているこの書が成立した経緯について、近年活発な議論が重ねられている。

長らく定説とされてきたのは、これが第二神殿の賛歌集で、遅くとも前三世紀初頭には成立していたというものである。その主要な根拠とされたのは、歴代誌上一六章に詩編一〇五、九六、一〇六編が伝承本文（いわゆるマソラ・テキスト）とほぼ同じ形態で引用されていることである。ここから、歴代誌執筆の時代（これも幾重にも検討されねばならないが）には旧約の詩編の書は今日の体裁をとって完成していたと考えられた。

ところが、この考え方でうまく解決しない事実が認識された。詩編はほかの聖書箇所にも多数言及されているが、ナンバリングまで記しているのは、紀元一世紀末の使徒言行録一三章三三節「詩編の第二編にも……書いてあるとおり」が最初である。詩編が前三世紀に完成していたとするならば、これは不思議に思える。

死海文書の研究も一役買った。すなわち、それに含まれる詩編写本は、内容は一致するものの、配列が大きく異なっていた。それはとりわけ後半——詩編一〇〇編以降顯著となる。つまり、死海写本が筆写された前二世紀、まだ詩編は現在の体裁をとっていなかった可能性があるということだ。

そして、ギリシア語の書名はプサルモイだが、この呼称も紀元前後の文書で一定していない。続編の知恵の書、フィロンやヨセフス、さらにマタイ、マルコでもこの呼称は使われていない。この人たちは、旧約の詩編の書とは別に、詩編の諸作品を収めた文書を持っていたということなのだろうか。

新たな提案

そこで二〇世紀末から、N・フクリスターやE・ツェンガーら、おもにドイツ語圏のカトリック旧約学者が、詩編の書は定説とされた時期ではなく紀元一世紀末まで完成していなかったのではないかと仮説を立て始めた。その主張によれば、死海文書の詩編写本は伝承本文に至る一里塚であり、現在の詩編の書はクムランの文書群執筆よりかなり後、ルカ文書の時代に慎重な作業を経て今日の一五〇作品が選定、配列され、形成されたという。

この見解は多くの関心と論争を呼んだ。

確かにこの書の配列には、ある種の意図性を感じさせる。早くからP・オフレによって指摘されてきたが、詩編一五——二四編はその好例である。すなわち、この外枠にあたる詩編一五編と二四編の類型は入城の詩編、同様に一六編と二三編は信頼の歌、一七編と二二編は嘆きの歌、一八編と二〇——二一編は王の詩編、そして中央の一九編は賛歌と、主要な類型が対応する配置となっている。オフレやフクリスターらは、これを一つのまとまった小詩集と見た。

この類の集中構造は、詩編二五——三四編や詩編四二、四三——四九編（コラ詩集）などにも観察される。ツェンガーは、詩編の書全体が、意図性のある編集を施された小詩集の蒐集体だと考えた。そうして、この仮説に立つ研究者らは詩編の書を、第二神殿の賛歌集や祭儀式文ではなく、通読することで「貧者の神学」から終末論的な「神の国」に関わる教えが学べる連作的な「読み物」とする視点を提案していったのである。

新たな応用

現在の旧約に収められた一五〇の作品からなる詩編の書を「読み物」とする見方は、そ

の成立についてさまざまな想像を生む。

一つの鍵は、「聖なる山」や「主の家」などに代表される「神殿の語彙」の使用法が、詩編を読み進むにしたがってどのような変化を示しているかである。劈頭（へきとう）を飾る詩編一編は、「主の教え（律法）」や「流れ」（二——三節）に触れ、続く二編は「聖なる山シオン」と「主を避けどころとする」ことに言及しているが、これらはいずれも神殿を暗示する語句である。この傾向は、詩編三編五節の「聖なる山」、五編八節の「聖なる宮」、七編二節の「避けどころ」と、その後の作品にも継承され、神殿祭儀（ほうとう）を彷彿（ほうふ）させる八編を導入する。詩編一五——二四編が入城の詩編に枠づけられていることは先に述べた。この小詩集が神殿への肯定的なこだわりを示しているのは明らかである。しかしこの語彙は、詩編第一巻の終結部にあたる三五編以降、掉尾（ちようび）の作品である四一編までには確認されない。意図的に避けていると感じられる。

「幸いな人」の用法にも注意を向けたい。詩編一編では、律法を「昼も夜も口ずさむ……流れ（神殿）のほとり」にある人と述べ、神殿とのつながりによる祝福を強調している。しかし、詩編四一編ではそれが「弱いものに思いやりのある人」とされ、神殿ではなく、その人がいま現にいる「地」（三節）で幸いになるよう祈られる。神殿を信仰の要から

外しているのだ。

テキストを読み進める中で、神殿に徐々に距離を置くこの傾向は、詩編第五巻にも認められる。そう考えると詩編の書は、実は神殿のための賛歌ではなく、神殿から離れて、あるいは神殿抜きに成り立つ信仰を模索する「読み物」であったと見ることが妥当だと思われる。「神殿を壊したら、三日で建て直す」と語ったナザレ人の精神的背景も浮かび上がってくるのではないか。



※本編は、二〇一一年十二月にリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスで開かれた「第50回聖書セミナー」の講義内容から、本誌のために改めてご執筆いただきました。

雲の柱に導かれた

賀川豊彦と聖書

鈴木範久

すずきのりひさ 立教大学名誉教授

死線を越えて

少年時代に結核を病んで療養の日々を送っていたころ、賀川豊彦の『死線を越えて』に出会った。同書にひかれた最大の理由は、賀川が結核にかかり、愛知県蒲郡^{がまぐち}で療養中にそれが書かれたことだった。蒲郡は、わたしが住んで病気を養っていた町のまさに隣である。歩いても行けるところだった。海に面し気候が温暖で、山の斜面にはミカン畑がひろがっていた。

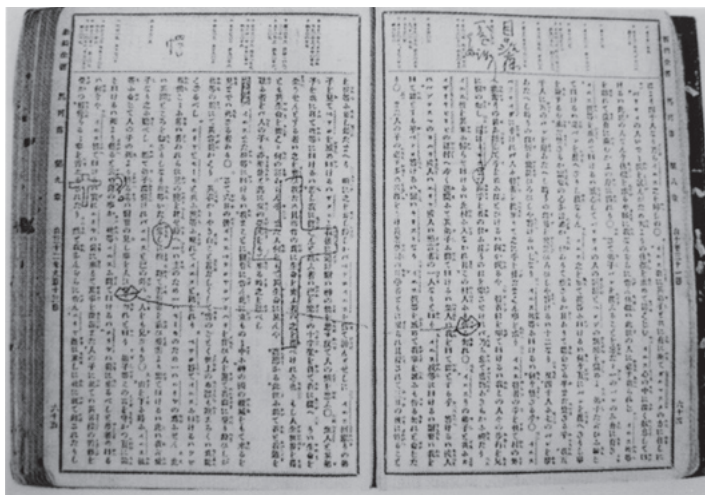
当時、賀川はまだ一九歳、時代こそ隔たっているが、わたしも一七歳である。賀川は、蒲郡に住む前年、近くの岡崎教会の伝道を手伝っていた。わたしも岡崎教会の附属幼稚園以来、同教会に出入りしていたので、結核療養の大先輩である賀川に、いっそう

親しみを抱いた。賀川は豊橋教会の伝道も手伝ったから、三河地方には土地勘があり、療養に適した蒲郡を選んだのだろう。これ以後、賀川は絶えず気になる存在となった。

神の乳房

青年時代になって、たまたま通りかかった東京の教会の正面に、説教者として賀川豊彦の名前が大書されていた。ためらいなく中に飛び込んで賀川の話をはじめて聞いた。他の牧師たちの説教との大きな相違は、背後の黒板にさかんに太古の地質年代を書きつけ、白墨の粉を舞い上がらせながらの話し方である。このときは、正直なところ、賀川の話の意図がよくわからなかった。終わると、ただちに「決心者は前に出てくさい」との司会者の声があり、その声に促

『引照 新約聖書』



及できなかった理由だった。

雲の柱

昔に戻るが、毎週のように神田で、『賀川豊彦伝』の著者、横山春一さんと、内村文獻の収集家であるペリカン書房の品川力さんをまじえて雑談する時期があった。お二人は、年齢的にも人生の先輩であり、わたしはもっぱら聞き役だった。あるとき、賀川豊彦に関する質問をいくつか用意しておいて横山さんに尋ねた。

「賀川豊彦がもっとも好んだ聖書の言葉はなんでしょうか」

「それは『雲の柱』だと思いますよ」

これが横山さんの答えだった。

そういえば、賀川の雑誌に『雲の柱』（創刊一九三三年一月）があり、表紙には「雲の柱」に導かれる人の挿し絵があった。言うまでもなく旧約聖書出エジプト記第一三章二一節の次の言葉によっている。

主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもつて導き、夜は火の柱をもつて彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。

まもなくして、賀川によって描かれた「雲の柱」の絵の含まれた冊子を入手した。こ

雲の柱の導くままに



れには「一九二八・一〇／賀川生／津軽海にて」と付されている。一九二八年といえば、賀川の提唱した全国伝道の展開中である。その途中で青森県入りしたときだろう。賀川は、「雲の柱の導くままに」と記した同じような構図の絵を好んで描いたようだ。賀川がなぜ「雲の柱」を好んだのか、それ以上は横山さんに聞かずじまいだったが、賀川が「出エジプト」により脱出をはかったものが、その活動と深く結びついているの思いはした。

賀川の用いた聖書は、その一生にわたり数多くあったと思うが、そのうちの一冊を、文字通り覗き見たことがある。そのとき強い印象を受けたのは、あちこちに多く書き込まれた大小の十字架の図である。この十字架の図と賀川のもつ贖罪思想とがどのような関係にあるのか、この絵解きも残されたままである。



賀川豊彦

祈りと努力

加藤 一二三

エッセー 35

昭和四三年は棋士として記念すべき年であった。名人に次ぐ大きなタイトル戦である十段戦の挑戦者となり、大山康晴十段との七番勝負を戦った。第一局、第二局と連敗したが、二局目の対局終了後、ふっと、今日は負けたけれども今期は十段になれるという考えが浮かんできた。全く予期せぬことだったので、きっと実現すると思った。続く第三局に快勝し、第四局では、休み時間を含めて七時間近く熟考してついに絶妙手を見つけて完勝した。将棋の深さを経験し、転機になった。次の第五局は大山十段に巧く負かされた。そして第六局、一月二三日、二四両日の対局で、初めて大きな感動を経験した。大詰め近く、私が負けの状況になっていたが、双方が気づかず進行し、私が勝って三勝三敗となった。この戦いで棋士の存在意義を確認し、生涯、棋士として精進していく自信を持った。熱戦を終えて対局場を後にし、妻が洗礼を受けることになっている東京の下井草カトリック教会に急ぎ行って、妻に勝利を告げた。

決勝戦は昭和四四年の一月六、七両日、東京四谷の「ふくでん」で行われることになった。対局前日、妻が受洗祝いにマンテガツァー神父からいただいた聖アウグスチヌスの『信心生活』の序文を読んだ。その中にたしか、「あなたにもし何かしらよいところがあるとすれば、それは神の恵みである」という教えがあった。聖人から語りかけられている気持ちになり、大きなげましを受けた。大山十段と私は大勝負をくり返していたので、事前の作戦は全く考えなかった。決勝戦は互いに攻防の秘術をつくす熱戦が展開されたが、私が勝利を収めて十段となった。

その後、キリスト教の本をいろいろ読んだり、家族と共にミサに出席などしていたが、『信心生活』を読んで洗礼を受ける決心をした。昭和四五年のクリスマスに下井

草カトリック教会で洗礼を受け、それから毎週ミサにあずかったが、対局に備えて特別に祈ってはいなかった。しかし昭和四七年の一〇月、やはり祈ったほうがよいと考えて、対局前日、下井草教会に行って、祈りの本を見ながら三時間ほど祈った。翌日の対局では自分でもはつきり分かったが、剛気な気持ちで戦うことができた。以後、対局前日には祈りが習慣となった。

昭和五五年の五月、吉祥寺カトリック教会主催の聖地巡礼旅行に加わってイスラエルに行った。一日一日、大きな感動を覚えながら聖書ゆかりの地をめぐった。回想すると、復活されたイエス様がマグダラのマリアに出現された場所でゆっくり黙想したことや、オリブ山からエルサレムをながめて深々とした感動を覚えたことなどが懐かしく思い出されてくる。巡礼を終えて帰国後、大きく冴えた将棋を指し続けて、この期の十段になった。翌年は十段位を防衛し、昭和五七年の名人戦では中原誠名人に勝って念願の名人となった。この決勝戦は七月三〇、三一両日、東京の将棋会館で行われたが、近くの聖イグナチオ教会のミサにあずかって神様にお祈りした。歴史に残る名勝負は、残り時間一分まで真剣に熟考して決め手を見つけた私が勝って決着がついた。この決勝戦において、「勇氣を持って戦え、敵の面前で弱気を出すな、あわてないで、落ち着いて戦え」という教えを対局中、何度も何度も自分に言いきかせて戦い抜いた。人の努力は神様の助けを得て完成すると信じている。

対局の前日にはモーツァルトの名曲をよく聴く。私たちの名局は、双方が最善手を指し続けて生まれる。しかし、どちらかに問題手が出ることは避けられない。けれども、素晴らしい着想の連続は、将棋愛好者に大きな喜びを与えられると思っている。

ローマ教皇ベネディクト一六世はある文章の中で、信徒一人ひとりも自分の経験を語りなさいと言っている。私も以前から自分の経験を話すことが時々あったが、最近



加藤一二三 (かとう・ひふみ)
将棋棋士。九段。

写真は公益社団法人日本将棋連盟
Webサイトより、許可を得て転載

新 翻 訳
ニ ュ ー ス

日本聖書協会では次世代に向け、
新しい聖書翻訳に取り組んでいます。
進捗状況は随時お知らせしてまいりますので、
どうぞお祈りに覚えてください。

2009年12月の理事会で決定された新しい聖書翻訳事業は、2010年8月に開かれた翻訳者のためのオリエンテーションから本格的に開始されました。2011年6月現在で、原語担当者35名、日本語担当者11名の合計46名で翻訳にあたっています。この8月には翻訳者全員が集まり、そこで、旧約、新約、続編、日本語、の各分野での課題が話し合われます。書名や重要語句など、聖書全体に関わる重要な事柄は、各教派、団体から派遣された代表者で構成される検討委員会で話し合われています。聖書協会では、聖書を「神の言葉である」との共通理解のもとに、教会が主体となって原典に基づいて共同で翻訳しますので、多様な意見の中で議論され、個人訳に比べると時間がかかりますが、それだけ多くの方々に受け入れられる練られた翻訳聖書を生み出すことができるでしょう。(日本聖書協会翻訳部)



旧約部会 (2011年3月)

第50回 聖書和訳協力者頌徳記念式典

現存する最古の和訳聖書、カール・ギュツラフ訳『約翰福音之傳』(1837年)の翻訳を助けた3人の日本人漂流民、岩吉、久吉、音吉の業績を憶え、毎年、記念式典が開催されています。式典会場は、彼ら3人の出身地、現在の愛知県知多郡美浜町小野浦福島にある「岩吉、久吉、乙吉頌徳記念碑」前です。50回の節目を迎える今年は、昼食を共にした後に、3人の激動の運命を描いた三浦綾子原作の映画「海嶺」を鑑賞いたします。

日時：2011年10月6日(木)

10時 式典開始 式典後、美浜少年自然の家に移動
昼食後、映画鑑賞会

※終了は15時半過ぎを見込んでおります。

式典、昼食、映画鑑賞会すべて無料です。
(未就学児のご参加はご遠慮くださいますようお願いいたします)



岩吉、久吉、乙吉頌徳記念碑

昼食準備の都合上、9月21日(水)までに事前お申し込みをお願いいたします。お問い合わせは、日本聖書協会広報部までEメール (info@bible.or.jp)、またはお電話 (03-3567-1988) でお寄せください。

Bible Guide

みことばフォトブック「想い」

みことばブック
第2弾、
9月上旬発売。

昨年12月から、写真と、それに添えるみことばを広く公募いたしました。多数の応募作品の中から、今回は約130点を厳選。聖書のことばと、写真の「想い」が、重なりました。人が人を撮る、人が人を想う、みことばがそれをつなぐ…ページをめくるたびに、心が動くフォトブックです。



NI650-P2 オールカラーB5変型判 紙装(ジャケット掛け)
定価1,500円(税込) ISBN978-4-8202-7213-7



NEW BIBLE TALK ニューバイブルトーク

聖書を聴き、読む生活。
旧新約録音聖書を全巻収録し、音声と共に、
聖書本文をテキスト表示して読める、
デジタル・オーディオ・プレーヤーの誕生です。
(今秋発売開始予定)

収録

聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき /
みんなの聖書 絵本シリーズ朗読版 (久米小百合さん) /
賛美歌サンプル3曲 メモリー4GB (うち、購入時の空き領域1.2GB)

特徴

*PCからのファイルダウンロード、録音、再生、動画再生が可能な
多機能携帯音楽プレーヤー、スピーカー内蔵。
*朗読にあわせ、カラー液晶画面に本文テキストを表示。
*再生する箇所を数字で直接指定可。
*microSDカードスロット搭載。高性能リチウムイオン電池採用。
ソフトウェアはアップグレード可能。



NINBT-DC
定価9,975円(税込)
ISBN978-4-8202-8243-3

旧約聖史略 小野成籌（聖名ペートル）訳

（正教会 1876年 上下巻）縦：23cm 横：16cm



新約聖史略 堀江復（聖名サワ）訳

（正教会 1876年 上下巻）縦：23cm 横：16cm



正教会の最初の聖書関係教書。日本伝道の初期に、聖書に関する知識を与えるために翻訳された。正教会の伝統にのっとり、伝承も取り入れ、聖書の内容を要約し、順序だてて記述する聖書物語。

小野成籌と堀江復は、共にニコライの設けた翻訳局ロシア語科で多くの教書類を翻訳し活躍した翻訳者であるが、両書とも司祭ニコライ関とあり、聖書関連書がニコライの校閲のもとに翻訳されていたことがわかる。

石版印刷で印刷された和綴じ本。

文語体で書かれ、右ルビに読みを、左ルビに意味を記している。たとえば、「理訟官【リシヨウクワン／サバキヤク】」「義人【ギジン／タバシキヒト】」「十字架【ジフジカ／ハリツケバシラ】」。

固有名詞は「エフ」（エバ）「モイセイ」（モーセ）「イオアン」（ヨハネ）「イエルサリム」（エルサレム）など、現在正教会で使用しているスラブ語読み表記である。「イスス・ハリストス」は「イ、スース・ハリストス」と表記され、アクセントの位置がわかるように「一」が挿入されている。

東日本大震災

被災地への聖書支援にご協力をお願いいたします

日本聖書協会では、被災した方々に希望を持って復興への道を歩んでいただけるよう、聖書支援を行っています。特に、悲惨な状況を目にして不安の中で過ごす子どもたちの心を慰める『絵本聖書』『マンガ聖書』、また、被害を受けて聖書を必要としている現地の教会に備え付け用『聖書』（旧新約聖書）を寄贈いたします。この趣旨にご賛同いただける方のご献金を受け付けております。

ご献金の方

●郵便振替／00160-2-18410

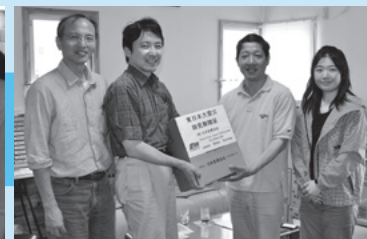
備考欄に必ず「国内災害地支援献金」とお書き添えください。

●銀行振込／三井住友銀行 京橋支店（普）6552744

銀行振込は送金される前に、お手数ですが、メール、お電話等で「国内災害地支援献金」である旨、お知らせくださいますようお願いいたします。

上記いずれも 口座名：財団法人 日本聖書協会

募金目標 2,000万円
聖書 10,000冊
絵本聖書 5,000冊
マンガ聖書 5,000冊



被災地への聖書支援活動は、ホームページで詳しくご紹介しています。
<http://www.bible.or.jp/higashinohon/index.html>

聖書協会を継続してお支えいただける後援会にご入会ください！

★年会費は下記の5種類からお選びいただけます。

A：1,000円 B：3,000円 C：5,000円

D：10,000円 E：50,000円

後援会入会申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

ホームページでも「入会申し込み」をお受けしています。

<http://www.bible.or.jp/collection/col07.html>

会員バッジ



女性用 男性用

ご入会いただいた方には、会員証と会員バッジを進呈し、年4回発行のニューズレター「からし種」をお届けして、聖書協会の働きをご報告いたします。

お問い合わせ：日本聖書協会募金部 TEL. 03-3567-1980 〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 E-mail: fund-raising@bible.or.jp

Become a member and support the Bible Work



この印刷物は適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC®認証紙」を使用しています。

編集後記
今夏も厳しい暑さが続きましたが、いかがお過ごしですか。とりわけ東日本大震災において被災された皆様におかれましては、なおも不自由な毎日とお察し申し上げます。主の慰め、励ましがありましますように。そして一日も早い復興をお祈り申し上げます。
特集では、三月下旬以降、当協会が被災地にうかがった際の報告をさせていただきました。津波に遭った会堂を復旧させるにあたって、「いつ終わるかわからない作業の中で、精神的な疲れもピークに達しました」と語る三〇代前半の牧師先生の言葉が、心に重く響きました。そのような極限状態において、YMCAからの応援など、主の導きのうちに支えられ、先生と教会は地域との協力関係を深め、子どもがお邪魔した時は、町の復旧作業を力強く続けていらっしゃいました。
「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい」（テモテへの手紙二・四・二）。この国に住むお一人一人に、そして世界に、希望の御言葉が行き渡るよう、当協会もさらに努力してまいります。